

令和6年度 県政モニターアンケート調査結果

テーマ：ワンヘルスについて

福岡県 保健医療介護部 ワンヘルス総合推進課

【調査目的】

今、地球上では、人口増加、森林開発や農地化などの土地利用の変化によって、自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動が生じています。

また、人が今まで立ち入らなかった自然の奥地にまで侵入することなどで、野生動物との接触の機会が増え、新型コロナウイルス感染症をはじめとする人と動物の双方に感染する「人獣共通感染症」が増えています。

こうした問題に対応するためには、人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え、一体的に守っていく「ワンヘルス (One Health)」の考え方が重要です。この考え方は、世界的に広がっており、「G7 サミット」など国際間の枠組みでも合意されています。

県では、みやま市に全国初のワンヘルスの実践拠点となる「ワンヘルスセンター」の整備に向けて準備を進めるなど、全国に先駆け、ワンヘルスの推進に取り組んでいます。

今後、より一層の取組を進めるにあたり、「ワンヘルス」について皆様の御意見をお聴かせいただき、事業及びその評価などの参考とさせていただきたいと思います。

※端数処理の関係で、割合の合計が 100%にならない場合があります。

1 令和6年度第5回県政モニターアンケート調査

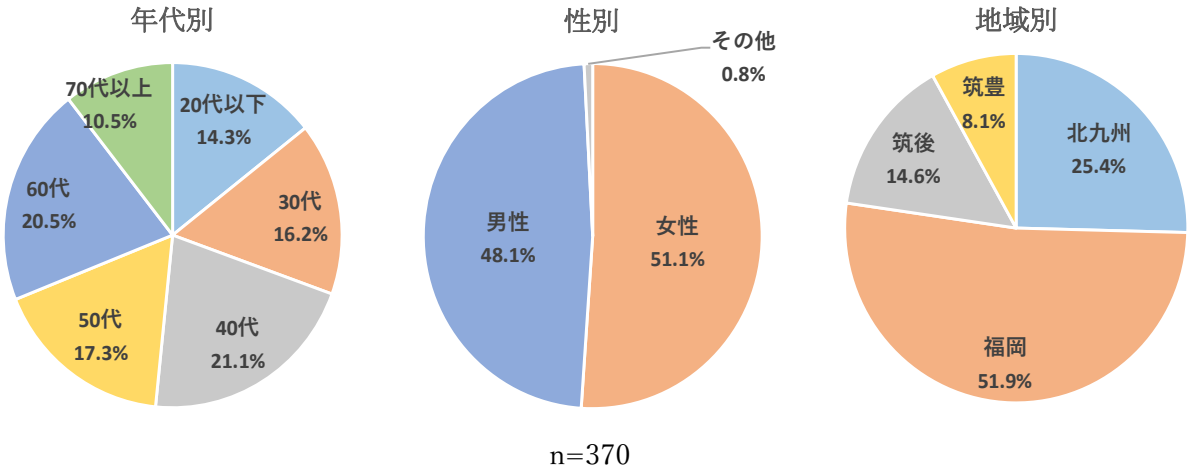
(概要)

モニター数： 398 人
 回答数： 370 人
 回収率： 92.96%
 実施期間： 令和6年11月15日～令和6年12月5日

(回答者構成) (R6：n=370)

項目		計		北九州	福岡	筑後	筑豊
		人数(人)	構成比				
総数	人数	370		94	192	54	30
	構成比		100.0%	25.4%	51.9%	14.6%	8.1%
性別	女性	189	51.1%	50	94	30	15
	男性	178	48.1%	42	97	24	15
	その他	3	0.8%	2	1	0	0
年代別	20代以下	53	14.3%	12	28	8	5
	30代	60	16.2%	17	31	9	3
	40代	78	21.1%	21	39	11	7
	50代	64	17.3%	15	34	12	3
	60代	76	20.5%	22	39	5	10
	70代以上	39	10.5%	7	21	9	2

回答者構成



2 調査結果

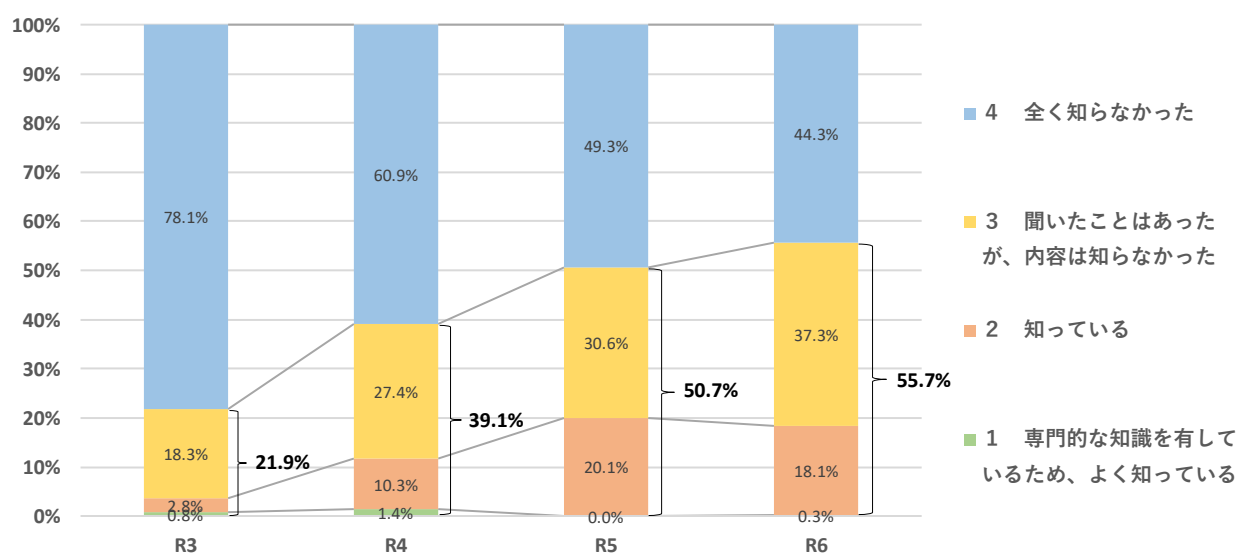
問1 あなたは、「ワンヘルス」とは何か知っていましたか。次の中から【1つだけ】選んでください。

【全体】

(R6:n=370)

選択肢	R3		R4		R5		R6	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	3	0.8%	5	1.4%	0	0.0%	1	0.3%
2 知っている	10	2.8%	36	10.3%	73	20.1%	67	18.1%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	66	18.3%	96	27.4%	111	30.6%	138	37.3%
4 全く知らなかった	281	78.1%	213	60.9%	179	49.3%	164	44.3%
合計	360	100.0%	350	100.0%	363	100.0%	370	100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	79	21.9%	137	39.1%	184	50.7%	206	55.7%

ワンヘルスの認知率



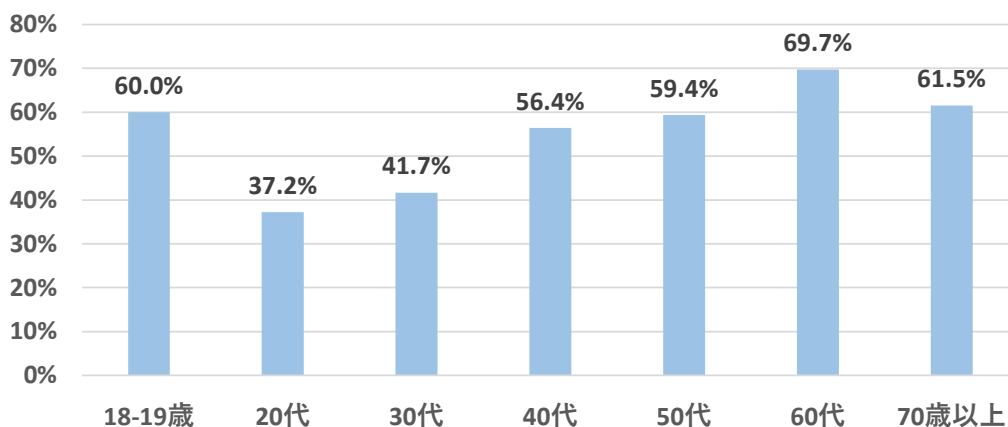
- ・ 調査を開始した令和3年度以降、「ワンヘルス」という言葉を知っている方の割合（認知率）は増加傾向にあり、今回の調査では前年に比べ5.0%pt増加した。（R5:50.7% → R6:55.7%）

【年代別】

(n=370)

選択肢	18-19 歳	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 歳以上	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 1.3%	0 0.0%	1 0.3%
2 知っている	3 30.0%	4 9.3%	2 3.3%	13 16.7%	15 23.4%	16 21.1%	14 35.9%	67 18.1%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	3 30.0%	12 27.9%	23 38.3%	31 39.7%	23 35.9%	36 47.4%	10 25.6%	138 37.3%
4 全く知らなかった	4 40.0%	27 62.8%	35 58.3%	34 43.6%	26 40.6%	23 30.3%	15 38.5%	164 44.3%
合計	10 100.0%	43 100.0%	60 100.0%	78 100.0%	64 100.0%	76 100.0%	39 100.0%	370 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3 と回答した方)	6 60.0%	16 37.2%	25 41.7%	44 56.4%	38 59.4%	53 69.7%	24 61.5%	206 55.7%

年代別の認知率



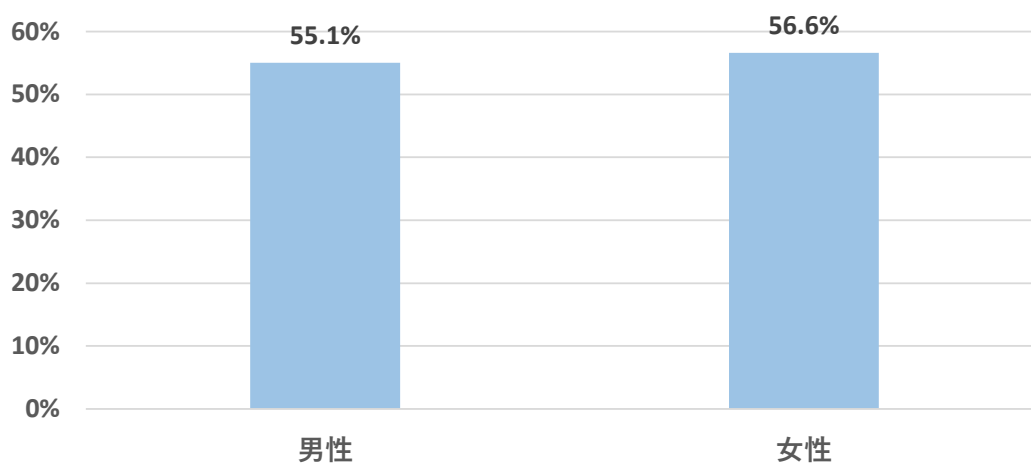
- ・年代別のワンヘルスの認知率は、40代以上が50%を超えているのに対し、20代と30代では40%程度になっている。

【男女別】

(n=370)

選択肢	男性	女性	その他	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	1 0.3%
2 知っている	35 19.7%	32 16.9%	0 0.0%	67 18.1%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	63 35.4%	74 39.2%	1 33.3%	138 37.3%
4 全く知らなかった	80 44.9%	82 43.4%	2 66.7%	164 44.3%
合計	178 100.0%	189 100.0%	3 100.0%	370 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	98 55.1%	107 56.6%	1 33.3%	206 55.7%

男女別の認知率



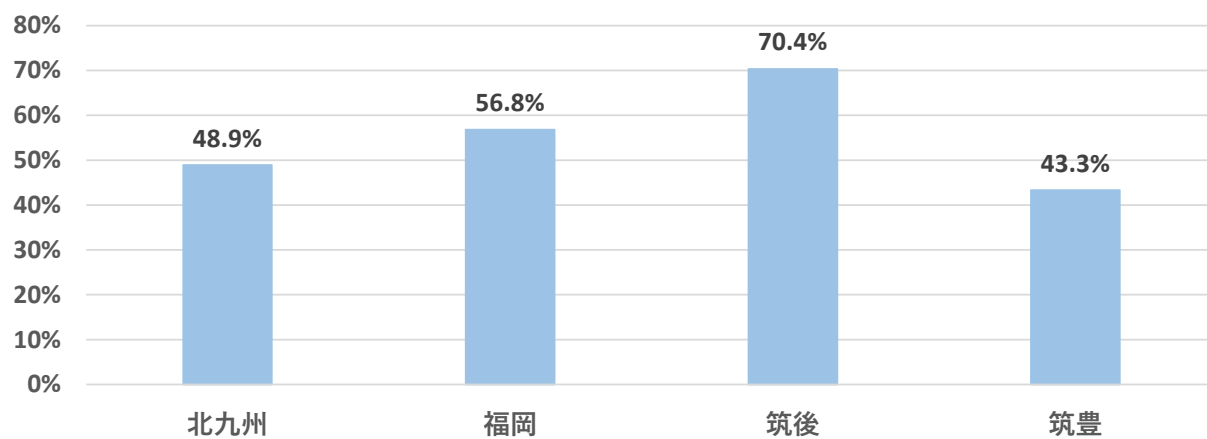
- ・男女別のワンヘルスの認知率は、男性 55.1%、女性 56.6%であり、大きな差は見受けられない。

【地域別】

(n=370)

選択肢	北九州	福岡	筑後	筑豊	合計
1 専門的な知識を有しているため、よく知っている	0 0.0%	1 0.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.3%
2 知っている	15 16.0%	38 19.8%	11 20.4%	3 10.0%	67 18.1%
3 聞いたことはあったが、内容は知らなかった	31 33.0%	70 36.5%	27 50.0%	10 33.3%	138 37.3%
4 全く知らなかった	48 51.1%	83 43.2%	16 29.6%	17 56.7%	164 44.3%
合計	94 100.0%	192 100.0%	54 100.0%	30 100.0%	370 100.0%
「ワンヘルス」という言葉を知っている方 (1～3と回答した方)	46 48.9%	109 56.8%	38 70.4%	13 43.3%	206 55.7%

地域別の認知率



- ・地域別のワンヘルスの認知率は、最も高かったのが筑後地域の70.4%、最も低かったのが筑豊地域の43.3%であった。

問2 (問1で「1～3」を選択された方にお尋ねします。)

「ワンヘルス」という言葉を知ったきっかけは何ですか。次の中から当てはまるものを【すべて】選んでください。

(複数選択可) (R6 : n=206)

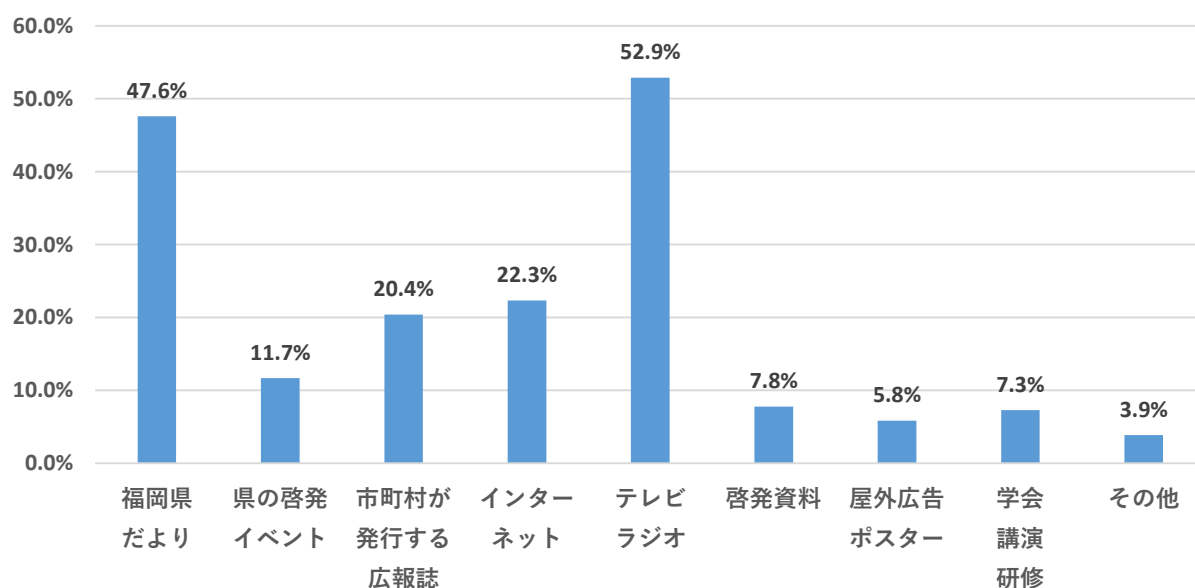
選択肢	R4		R5		R6※	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 福岡県だより	34	24.8%	48	26.1%	98	47.6%
2 県の啓発イベント	7	5.1%	7	3.8%	24	11.7%
3 市町村が発行する広報誌	11	8.0%	16	8.7%	42	20.4%
4 インターネット(県HP、ワンヘルス推進ポータルサイト、広告など)	22	16.1%	29	15.8%	46	22.3%
5 テレビ、ラジオ	44	32.1%	61	33.2%	109	52.9%
6 啓発資料(ワンヘルス推進冊子、ワンヘルス教育啓発資料、チラシなど)	3	2.2%	5	2.7%	16	7.8%
7 屋外広告・ポスター	0	0.0%	2	1.1%	12	5.8%
8 学会、講演、研修	4	2.9%	4	2.2%	15	7.3%
9 その他	10	7.3%	9	4.9%	8	3.9%
10 無回答	2	1.5%	3	1.6%		
合計	137	100.0%	184	100.0%	370	

※R6 年度からは設問を変え、集計方法も変更しています。

～R5 年度：選択肢から、1つだけを選択

R6 年度：選択肢から、複数選択可能 (集計表の無回答欄を削除)

ワンヘルスを知ったきっかけ (R6 年度)



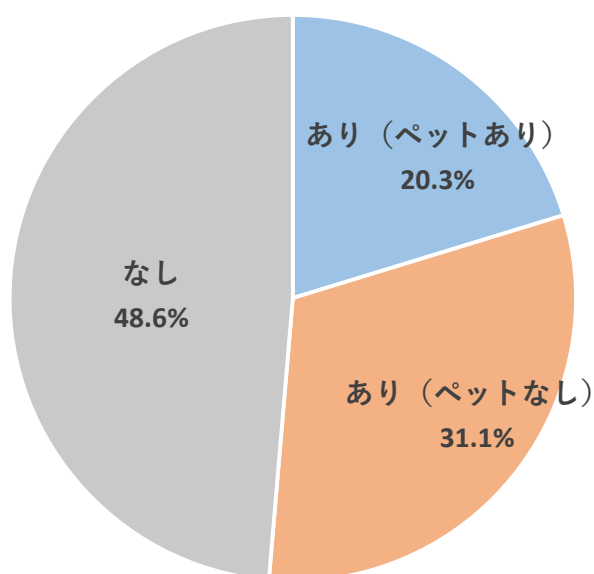
- ・ワンヘルスについて知っている人が、知ったきっかけについて、最も多かったのが「テレビ、ラジオ」、続いて、「福岡県だより」「インターネット」「市町村が発行する広報誌」の順であった。
- ・このうち、「テレビ、ラジオ」については、10月に開催したワンヘルスフェスタのPRのため、テレビでイベントの紹介やワンヘルスの啓発を行ったこと、またワンヘルス認証のテレビCMが放映されたことによるものと考えられる。

問3 あなたは日常生活の中で、動物とふれ合う機会がありますか。次の中から【1つだけ】選んでください。

(R6 : n=370)

選択肢	R4		R5		R6	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 現在、ペットを飼っており、日常的にふれ合う機会がある	82	23.4%	71	19.6%	75	20.3%
2 ペットは飼っていないが、動物とふれ合う機会がある（ふれあい動物園やイベントなど）	110	31.4%	106	29.2%	115	31.1%
3 動物とふれ合う機会はない（アレルギーがある、動物に興味がないなど）	158	45.1%	186	51.2%	180	48.6%
合計	350	100.0%	363	100.0%	370	100.0%
動物とふれ合う機会がある方 （1～2と回答した方）	192	54.9%	177	48.8%	190	51.4%

動物とふれ合う機会（R6 年度）



n=370

・動物とふれ合う機会がある方は51.4%と、およそ2人に1人に当たる。

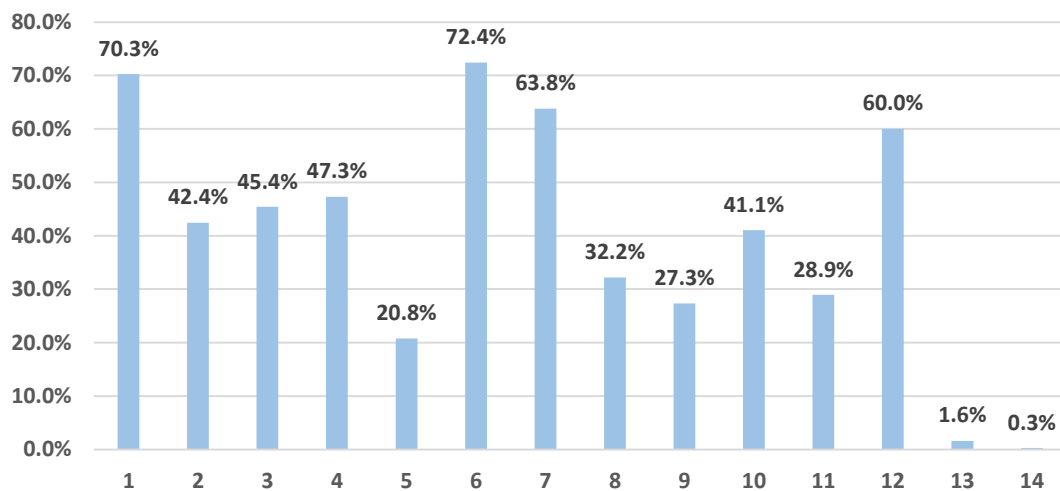
問4 県では、ワンヘルスの課題に対し、「人獣共通感染症対策」、「薬剤耐性菌（抗生物質などが効かない、または効きにくくなった細菌）対策」、「環境保護」、「人と動物の共生社会づくり」、自然や動物とのふれ合いを通じた「健康づくり」、「環境と人と動物のより良い関係づくり」を進めています。これらに関して、あなたが、日常生活の中で取り組んでいることはありますか。次の中から該当するものを【全て】選んでください。

（複数選択可）（R6：n=370）

選択肢	R4		R5		R6	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
1 動物に触れた後は、手洗いをし、清潔に保つ（人獣共通感染症対策）	252	72.0%	271	74.7%	260	70.3%
2 ペットに口移しで食事を与えるなど、過剰な接触を避け、人と動物の共通感染症にかかることを防止する（人獣共通感染症対策）	146	41.7%	145	39.9%	157	42.4%
3 登山や里山など野生動物が多く生息するような環境に出かける際は、マダニなどに咬まれないようにするため、長袖、長ズボンなどを着用し、感染防止に努めている（人獣共通感染症対策）	146	41.7%	157	43.3%	168	45.4%
4 病院や薬局で処方された抗生物質は、途中でやめないなど、用法用量を守り、薬剤耐性菌を生む要因の発生防止に貢献する（薬剤耐性菌対策）	142	40.6%	157	43.3%	175	47.3%
5 移動の際は自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献する（環境保護）	55	15.7%	72	19.8%	77	20.8%
6 買い物の際にはレジ袋をもらわず、エコバッグを持参し、プラスチックごみの削減に貢献する（環境保護）	253	72.3%	289	79.6%	268	72.4%
7 野生動物にはむやみに近づかない、餌付けをしないなど、適正な距離を保つことを理解している（人と動物の共生社会づくり）	202	57.7%	230	63.4%	236	63.8%
8 ペットを飼う場合は、その健康管理を行うとともに、飼育環境を清潔にする、散歩中の糞は持ち帰るなど、適切に管理している（人と動物の共生社会づくり）	97	27.7%	112	30.9%	119	32.2%
9 ハイキングや森林浴などにより、自然とふれ合うことで、身近な自然への理解を深めている（健康づくり）	100	28.6%	113	31.1%	101	27.3%
10 食材を購入する際は、できる限り地元で生産された農産物を選び、地産地消に取り組んでいる（環境と人と動物のより良い関係づくり）	150	42.9%	163	44.9%	152	41.1%

選択肢	R4		R5		R6	
	回答数	割合	回答数	選択肢	回答数	割合
11 食材を購入する際は、低農薬など、環境負荷の少ない農産物を選ぶようにしている（環境と人と動物のより良い関係づくり）	106	30.3%	107	29.5%	107	28.9%
12 買いすぎない、作りすぎない、注文しすぎない、食べきるなどを心がけ、食品ロスの削減に取り組んでいる。（環境と人と動物のより良い関係づくり）	201	57.4%	207	57.0%	222	60.0%
13 取り組んでいることはない	11	3.1%	9	2.5%	6	1.6%
14 その他（次の設問で具体的に記入してください。）	2	0.6%	3	0.8%	1	0.3%

日常生活の中で取り組んでいること（R6年度）



- ・ワンヘルスの各課題に対し日常生活で取り組んでいる方の割合は、エコバッグ持参による環境保護、動物に触れた後の手洗いによる人獣共通感染症対策が7割以上と、高い割合を占めている。
- ・人獣共通感染症対策に係る取組を行っている方の割合はどの設問も約4割以上を占めており、多くの方が取り組んでいる。
- ・一方で自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献することについては、20.8%と低くなっており、自家用車が生活において不可欠であることが伺える。

問5 問4で「14」を選んだ場合は、その内容を具体的に記入してください。

- ・ 選択肢5や6のような誤った情報に踊らされないよう、自分の頭でしっかり考える癖を持ち、固定観念に縛られないようかつ新しいことを学んでいく。

【50代 男性（北九州）】

問6 ワンヘルスについて、これまでの設問以外に意見はありますか。
ある場合は、その内容を具体的に入力してください。
(例：今後、県のワンヘルスの取組において求めることなど)

- ・ ワンヘルスという言葉は始めて知りました。ですが、上記の質問から無意識のうちにワンヘルスを実行していることにも気付きました。今後も必要なテーマになってくるとは思いますが、もっと認知されても良いように感じます。
【30代 女性（北九州）】
- ・ 山を削って太陽光パネル乱立させておいて自然と共存など、ダブルスタンダードも甚だしい。【50代 男性（北九州）】
- ・ ワンヘルスという言葉自体知らなかったのもっと広報活動を広げてほしいと思う。【30代 男性（北九州）】
- ・ 学校における啓発活動【70代以上 男性（北九州）】
- ・ 自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動の一つの問題として電源確保の為に森林開発などの土地利用の変化が考えられると思います。ソーラーパネルや風力発電設備設置は慎重に願いたい。【70代以上 男性（北九州）】
- ・ この記事を読むまで「ワンヘルス」にあまり知らなかった。大変良い取組なので、更なるPRで周知宣伝してほしい。【50代 男性（北九州）】
- ・ ワンヘルスという言葉の定義がそもそも分かりづらい。呼称を変えてはどうか。【40代 女性（北九州）】
- ・ ハイキングや森林浴などの啓蒙活動をもっと多くしてほしい。
【60代 男性（北九州）】
- ・ 具体的な取り組みのレベルで種々雑多な内容が混在しているように思える。もっと内容を整理し、また既存の取り組みとの区別も明確化したうえで推進するほうが効果的であろう。【50代 男性（北九州）】
- ・ 国内では、人口減少で自然環境がもとの状態に戻るのかと思いきや、森林開発で太陽光発電パネルや風力発電などで新たな土地利用の変化によって、自然環境の悪化や地球温暖化などの気候変動が生じています。これらは、身近な問題であり、広く言えば「ワンヘルス」の問題であるが、直接的には「エネルギー問題」「都市計画」の問題である。優先順位を考えて、これらの問題解決に向けてオールジャパン、オール福岡県で取り組んでほしい。
【70代以上 男性（北九州）】
- ・ 少し前まで、ワンヘルスという言葉も知りませんでしたが、県の広報をきっかけに知ることができました。地道な啓発活動の重要性を改めて感じました。
(人獣共通感染症について)
国内外の人や動物、物の往来の活発化に伴い人獣共通感染症のリスクは増大していく可能性があり、予防・感染の早期発見・早期対応によりいっそう力を入れる事が必要だと考えます。外国との習慣や価値観の違いを踏まえ、旅行者や移住者に対し国内(県内)で禁止されている事や注意すべき事を広く周知していく必要があると思います。国内では、北海道におけるキタキツネのエキノコックス保有率が上昇していることや、室内で飼育されている飼い犬からも発見されたことから、北海道とその他流行が懸念される地域から犬とともに旅行や移住する場合や、県内在住者が流行地へ犬とともに旅行へ行く場合など、県内に入る前に検便(必要に応じて駆虫薬の使用)を行いエキノコックスの県内侵入の防止策を検討する必要があると考えます。

(人と動物の共生社会について)

動物が好きな人も嫌いな人も快適に過ごせるようにペットの適正な飼育に向けた飼い主への啓発が重要だと思います。特に飼い猫の完全室内飼育の推奨(虐待、交通事故、ノミマダニその他感染症、糞尿による近隣トラブル、狩猟本能による野生動物への影響、外での繁殖を防止するため)犬のしつけ、糞尿の処理の徹底など。また、飼育放棄がなくなるような啓発も重要だと思います。人間と同じく特にペットが高齢になってから看護・介護・看取り、費用面について負担が増え、飼い主の介助が絶対に必要になります。介護の実際の様子など動画を作成し、譲渡・販売、迎え入れる形態問わず、視聴してもらい終生飼育可能か、引越し、結婚、出産、離婚など環境が変わっても飼い続けられるか飼う前によく検討を促すことが必要だと感じます。マイクロチップによる飼い主の把握により、違反が認められた場合には、動物愛護管理法に基づき警察とも連携し、罰則が適切に適用されるようにすることも大切だと思います。さらに飼い主に何かあった時に任せられる人や団体を決めておくことや、高齢化に伴い、飼えなくなったペットが取り残されないような仕組み作りも必要だと感じます。避妊去勢手術の必要性について啓発を継続し、多頭飼育崩壊を予防する事も重要であると考えます。【30代 女性(北九州)】

- ・ 長期休暇に子供向けイベントをたくさんして欲しい【40代 女性(北九州)】
- ・ もっと発信すべき。【50代 男性(北九州)】
- ・ ワンヘルス商品等には補助金等があり消費車は購入しやすく、事業者は事業が継続しやすいような取り組みがあればいいと思います。

【30代 男性(北九州)】

- ・ ワンヘルスという言葉は知っていましたが、内容は把握しておりませんでした。人と動物の健康と環境を守っていく活動と知って、自分自身で詳しく調べ、理解するきっかけとなりました。【30代 男性(北九州)】
- ・ ワンヘルスを唱えるのなら、森林をもっと増やすことをお勧めします。企業誘致などで地域経済の活性化を目指すことは大変結構なことではありますが、その土地にある木を伐採し更地にするのは環境的によろしくありません。また、山の木を伐採することは山の近くに住んでいる住民の安全を脅かし、危険に晒すことと同じであるため辞めるべきです。近年は雨も増え、気候もおかしくなり、現時点でさえ台風が発生しています。土砂災害の被害も増えていますため、山や山岳地帯の森林伐採は県単位でやめましょう。また可能な場合は、ITといった分野は地上と地下での開発も拡大してはどうでしょうか？参考程度に。【10代 男性(北九州)】
- ・ ワンヘルスをなかなか理解できない。「人と動物の健康と環境の健全性を一つの健康と捉え」のところがよくわからない。一つ一つの設問は理解できるが、それを関連付けて考えることができない。関連付ける接着剤のような言葉や事例が見つからない。【60代 女性(北九州)】
- ・ 野良猫が多く糞尿の害に困っている 自治体で捕獲等対策して欲しい【40代 男性(北九州)】
- ・ 太陽光どうにかしてほしい、逆行している、利権の塊【20代 男性(北九州)】
- ・ 続けてほしい【60代 女性(北九州)】
- ・ 動物を飼っていないなくても普段の生活と関連している事を広める取り組みが必要だと思います。【40代 女性(北九州)】

- ・ 地産地消の浸透、農薬の使用についての条約を厳しいものにしてほしい。
【30代 男性（北九州）】
- ・ ワンヘルスについてあまりに関心が、ありませんでした。以前犬を室内で飼っていましたが、今思うと、子供のような扱いをしていました。犬は犬とおもわなければいけなかったのかなと少し反省しています。感染症など考えていなかったです。【70代以上 女性（北九州）】
- ・ ワンヘルス・・・色々知らないカタカナが多いこの頃に違和感を感じる。日本語にして欲しい。動物、ゴミ、温暖化・・・幅が広いな。
【40代 その他（北九州）】
- ・ ワンヘルスなんて、初めて聞いたし、皆知らないと思う。ほとんどの人が知らないような事しないで、認知度を上げていくことで、人の興味を集めると思うので、そこから始めたらいいいと思う。【40代 その他（北九州）】
- ・ 私の住んでいる京築地域は自然が身近にあるので、環境や自然を大切に共存して暮らしていこうという意識が都会よりは強いかなと思う。地産地消だったり農業にかかわったりして自然のありがたみを感じながら、自然を守るために自分はなにができるのか少しでも考えられるようになりたいと思えるようになった。【40代 男性（北九州）】
- ・ ワンヘルスって言葉がイヤ。「生き物との共生」でいいのに説明がダラダラと長々とある言葉は無駄と思う。【70代以上 女性（福岡）】
- ・ 地域猫の活動がもっと浸透してほしい。不妊手術、去勢など。
【40代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスの事が大事と考えるならば、もう少し認知が必要であると考えて。しかも誰もがわかりやすく教育していただきたい。【40代 男性（福岡）】
- ・ 野良猫を自分の敷地以外の場所で餌やりしている人を見かけます。その場所は公園です。毎日です。こういう事が慈善活動と勘違いされているのではないかなと思うのですが、餌をやるだけで、糞の始末などはしてません。そのような方に地域猫活動に対して、どう話したりすれば良いのでしょうか？
【60代 女性（福岡）】
- ・ 聞いたことはありますが、あまり目にすることがないので良いことなのでもっとPR頂けたら自身の生活についても見直す機会になると思います。
【30代 男性（福岡）】
- ・ なるべく家庭菜園等で野菜を作り、段ボールコンポスト等にも挑戦している
【70代以上 女性（福岡）】
- ・ 今回初めて知りました。地球温暖化をはじめ今の異常気象はこれから多くなる事はあっても少なくなる事は難しいと思います。今年の酷暑もそうですがその余波が今の葉物の高騰に繋がっています。人間も自然の中の一部なのでそこは仕方がないのかもしれませんが。個人的には地球はどんどん破滅の道に進む一方かと考えます。もちろんそれを抑える活動は行っていますが多少の動きでは抑える事は難しいと思います。それでもその破滅の道を少しでも緩くなる為に今の我々が努力すべきだと考えます。【50代 女性（福岡）】
- ・ 福岡県が、国、世界に先駆けてワンヘルスに取り組まれていることが素晴らしいと感じています。【60代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスはあらゆる政策を横串で扱う、刺すものと思う。同様のものにSDGsがあり、SDGsのほうがより幅広で、浸透もしており、分かりやすいと思う。福岡県には申し訳ないが。【60代 男性（福岡）】
- ・ 森林の手入れ、害獣駆除、外来種の管理【60代 女性（福岡）】

- ・ 特にないが、今一つワンヘルスへの取り組みの重要性が分からない。
【60代 男性（福岡）】
- ・ ペットを飼っている世帯は多いのでまずは小さなことや身近に取り組めるワンヘルスについて知りたいです。災害時の、ペットや小学校で飼育されている動物、野生動物への対応等も県民で共有できていると安心だと思います。
【40代 女性（福岡）】
- ・ スーパーで買い物すると、未だにレジ袋を3円や5円で購入している方を良く見かけます。最近では、エコバッグ意識も薄れているように感じます。エコバッグを活用するキャンペーン等で意識付けが出来れば良いと思います。
【60代 男性（福岡）】
- ・ 動物と触れ合う機会を設ける場を作ってあげるべき【30代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスについては、言葉と内容を少しだけ最近知った。ワンヘルスに関しては、その範囲が広いので、周知する際はポイントを絞るなど、少しずつの方がストンと相手に入りやすいのではないかと思います。【60代 女性（福岡）】
- ・ あまりにテーマが大雑把で何をしたらよいか分からないと思う。多くのことがテーマとなると思うが特に一つを選んで半年や1年単位でテーマを決めて広報活動をしたらよいと思う。それをテーマを変えつつ。続けたらいいと思う。
【70代以上 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスの取り組み自体はとても良いと思いますが、ワンヘルスというネーミングから取り組みをイメージしづらいな、と思っています。例えば、エコといえば、地球にやさしく、とイメージできるので、イメージしやすいネーミングがあればと思っています。【40代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスにかんしては、あまり情報が入ってきませんが、人間社会のこれ以上の拡大と人間社会にいる動物たちとの共生をテーマにしているように感じる。最近、野良猫はいるが野良犬を全く見なくなった。40年前ほどはよく見かけていた気がする。捕獲などで殺処分を行っていった結果であろうか？確かに猫よりも犬の方が人間に対して危害を与えることが多い気がする。だからと言って、駆除するのはワンヘルスではないと思う。猫も地域猫というカモフラージュで、子孫を残させないようにしているが、これも長い目で見れば種の断絶である。動物に対してアレルギーのある人間は一定数居るが、動物と触れあう環境の無い世界にいれば、ますますアレルギーの人間は増えていくであろう。今よりも自由だった過去と比べ様々な制約がある現代において、益々人間が生きにくくなる環境を自ら作り出しているようにも思える。これは外国に習えの精神によるものではないかと考える。そのようなことでよいのか疑問である。
【50代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスを推進するために、それに合った行動へのメリットを設定すべき。例えばエコバッグであれば、それを用いることで有料レジ袋を買わずに済むためメリットがある。例えば県独自のポイント制度を導入してワンヘルスに従った行動をすればポイントが増え、それを購買に使えるようなことを考えるべき。【60代 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスという言葉の概念が まだ十分に自分の中で浸透しておらず、傍観者的な立ち位置にいる。しかし、アンケートの回答をする中で、ワンヘルスも、SDGsも共通した行動があり、身近だと思った。環境問題への馴染み、地産地消や、一物全体、身土不二、などのマクロビオティック、などの昭和からの意識は、ワンヘルスに繋がったと思った。ワンヘルスだけをアピールするより、環

境問題やマクロビ活動に便乗して啓発したがとっつきやすいのではないだろうか。【70代以上 女性（福岡）】

- ・ 日本全体、綺麗で美味しい物を作ろうとはしておりますが、農薬の散布による見た目や人口調味料による過度な美味さを追求し過ぎるあまり、人間の体内でそれらが蓄積され、予期せぬ悪い変化をもたらすのではないかと危惧しております。今後ともワンヘルスを考えて、食材選びをしております。

【30代 男性（福岡）】

- ・ ワンヘルスといわれるとなんのことだかわかりません。自然や動物との共生社会と言われるとなんのことだかわかるのですが…。【30代 男性（福岡）】
- ・ 地球温暖化で今まで当たり前に手に入っていた物が手に入りづらい現実がそこまで来ているのではないかと考えています。直売所とか出向くと新種の野菜など売ってあるので、気候にあった農産物に自分達の味覚も徐々に慣れさせるよう努めることではと思います【60代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスについて今後ますます考えていこうと思います。

【50代 女性（福岡）】

- ・ ワンヘルスという表現は日本語ではどう表すのでしょうか？私には見当が付きません。それだけ分かりにくい言葉と言えるのではないのでしょうか。世界的に利用されている単語であれば、〇〇〇〇ワンヘルス、同格の意味を列記して日本人が理解しやすいように取り組んではいかがでしょうか。私には同格の意味となる日本語が見つかりません。検討ください。【60代 男性（福岡）】
- ・ いまいちピンと来ないので、これから学んでいこうと思います。普段から考える機会を増やしていこうと思います。テレビやSNS等で触れる機会が多くなれば良いのではと思います。【50代 男性（福岡）】
- ・ 県のワンヘルスの広報を継続的に続けて欲しい。【60代 男性（福岡）】
- ・ 年齢的に高い山行はやめたけれどハイキングや低山には行きたいので、マダニや生息する野生動物などの情報発信が欲しい。また、山などに湧く清水などの水や川などの寄生虫のことや飲水についての注意喚起などまとめて見れるサイトがあればいいなと思います【60代 女性（福岡）】
- ・ 県民の啓もう活動をもっとしてほしい【70代以上 男性（福岡）】
- ・ ワンヘルスのことを知らなかったので知る機会になって良かったです。福岡は適度な都会と自然が共存してる良い県なので、今後も共存できるような取り組みをしていきたいと思いました。【30代 男性（福岡）】
- ・ 「環境保護」「SDG s」との違いを明確にしたほうがわかりやすいのではないのでしょうか。【30代 男性（福岡）】
- ・ 分かりやすく広範囲の展示を希望致します。【70代以上 女性（福岡）】
- ・ なぜかよく聞く名前なのに、これほど内容や取り組みを知らない（取り組み自体を知っていても、ワンヘルスと呼ばない。呼ぶことを知らない。）キーワードも珍しいなと思いました。【30代 女性（福岡）】
- ・ 猿や猪が人里までやってきて人を襲ったりもワンヘルスの中の一環かも。季節の果物などは早く収穫するなどしてほしい。山里に行くとスズナリの果物をそのままになってたり。その家の方は毎年みのるので平気なのかも。遠くから来た者はどうして収穫しないの？って思うので広報で果実などある家への収穫期をそのままにしない事を知らせるべきと思いました。

【70代以上 女性（福岡）】

- ・ 地産地消を積極的に行うことが輸送費の削減、CO2の削減にもつながるため、その消費を積極的にふるよう飲食店に促すべき。業務用スーパーやコストコに

対して、外国産のものを安くうろうとする企業に対して、取り扱い商品が外国産比率の高い店舗は税金を高くするなどしないと国産の商品は促さないと思う。【30代 女性（福岡）】

- ・ ワンヘルスについて今回詳しく知ることができたが、今までやってきたことを続けていけばいいんだという認識でした。【40代 女性（福岡）】
- ・ ワンヘルスに対して、公報でのPRの強化【70代以上 男性（福岡）】
- ・ 重要な取り組みであると思います。日常生活で意識して自分なりに取り組みを行っていますが、ワンヘルスという言葉はまだ浸透していないように思います。【60代 男性（福岡）】
- ・ こういった活動は根強く続けて当たり前の世の中にしていく必要があると思う。【30代 男性（福岡）】
- ・ 今答えているアンケートのワンヘルスの説明文が難しくてあまり理解できなかった。【50代 女性（福岡）】
- ・ 個人の店舗では、ペットを店内で放し飼いしているところが見られるので、衛生面や安全面での指導を行ってほしい。【50代 女性（福岡）】
- ・ どちらかというと、現在では人間と人間以外の動物とは全く別物として分離して考えられているという意識があったので、今回ワンヘルスについて知ることができてよかったです。【40代 女性（筑豊）】
- ・ ワンヘルスについて知りませんでした。取り組んでいることはたくさんありました。これから続けていくことと広めていくことを行っていく【20代 男性（筑豊）】
- ・ ワンヘルスについて知らない人が多いと思うので、もっとアピールした方がいいと思う。【60代 男性（筑豊）】
- ・ ワンヘルス、人獣共通感染症対策という言葉は、あまり知らなかった。動物との接触を管理することが一つの対策であろう。また、グローバル化による未知の感染症の広がりも大きく影響している。世界全体で連携をとり、対応を考える必要がある。【60代 男性（筑豊）】
- ・ 幼い頃から動植物に触れ合うと情緒豊かな子供になれると思います。どしどし自然に触れ合って欲しいです【60代 男性（筑豊）】
- ・ 私はこのアンケートでワンヘルスについて初めて知りました。福岡県は全国初に「福岡県ワンヘルス認証制度」を創設したにもかかわらず恥ずかしい限りです。しかしながら、県からの情報発信が不足しているのも事実ではないでしょうか。環境問題に意識が高い人々だけではなく一般の人々にも広く周知してもらうにはテコ入れが必要だと考えます。例えばスーパーなど小売店と連携して、認証マークを取得した商品を大量に入荷して安価で販売してもらうための補助金を出すなど、より積極的な施策を行ってはいかがでしょうか。【40代 男性（筑豊）】
- ・ 内容をよく知らないなので、もっとテレビや機関紙等で話題にしてほしいです。【50代 男性（筑豊）】
- ・ 福岡県ワンヘルス推進行動計画を拝見しましたが、中に「里地里山における野生動物の生息状況調査」という項目がありました。ワンヘルスは、人獣共通感染症を防ぐことも目的の一つになっていますが、生息調査のために森林等に入る行為こそが、感染症を蔓延させる要因の一つの可能性になっているのではないですか？人為ではない自然の森林等で動植物の絶滅等が発生することは自然の摂理であり、そこを人間が管理する必要はないと思います。自然の頂点に立ってほしい人間が、すべてを管理したいという欲望に過ぎないと思います。も

しくは自然から新たな人類の脅威が生まれるかもしれない恐怖からくることかもしれませんが。全国の家畜農家数及び生育数は、豚以外は減少しているのに感染症は反対に増えていました。家畜に携わる獣医師は、不足していると聞いたことがあります。感染症の増加原因が獣医師の不足によるものも影響しているのであれば、そこを保全するのもワンヘルスの一環になるのではないのでしょうか？感染症にかかると殺処分になるのは報道でも見えていますし、感染症が増えることで、畜産農家さんの減少にも拍車がかかるはずなので、福岡県でも畜産物を推進していくのであれば、感染症の原因を防ぐことを考えてほしいです。もう卵などの物価高騰には辟易していますから。【40代 男性（筑後）】

- ・ 飼いやすいようにペットの遺伝子操作をするのは止めてほしい

【40代 男性（筑後）】

- ・ ワンヘルスという言葉を知りました。日頃からプラスチックごみの削減など自分にも出来ることをやりたいと思っていますので、ぜひ色々な情報や知識を発信していただきたいです！【50代 女性（筑後）】
- ・ 野生動物を含む環境を守る事は必要だが行き過ぎた保護政策によりペットの放棄により色んな野生動物が増えている現象があります。適正な野生動物の管理を専門家を加えた専門チームの発足を望みます。【60代 男性（筑後）】
- ・ 地球はひとつみんなが暮らしやすくなって欲しい【40代 女性（筑後）】
- ・ 移動の際は自家用車の使用を控え、公共交通機関を利用し、地球温暖化の防止に貢献する（環境保護）と、あるが、年々バスの便が少なくなったり、休日は減便されるなど、これらを行うことは難しくなっている。

【20代 男性（筑後）】

- ・ みやま市に、ワンヘルスセンターが出来たのは知りませんでした。ぜひ足を運んで、勉強の機会を得たいと思います。自然、動物、人間が、共に豊かに生きて行けるのが理想です。【40代 女性（筑後）】
- ・ 近所に野良猫が数匹いるが餌を食べさせている人がいるので困っています。耕した家庭菜園の畑に糞をするし出たばかりの芽を荒らすので歯がゆい思いです。【70代以上 男性（筑後）】
- ・ 言葉はなんとなく知ってるけどよくわからないという人が結構いるかと思います。【40代 女性（筑後）】
- ・ 今まで以上に自らワンヘルスに取り組んでいきたい。県においても一層の啓発活動に取り組んでほしい。【70代以上 男性（筑後）】
- ・ 可愛さあまりに生活をともにするが、感染のことなどは疎かになっていたように思う。意識すること、行動することが大切だと感じた。

【40代 男性（筑後）】

- ・ 地球温暖化は人類の喫緊の課題なのに、「ワンヘルス」という言葉（ワード）が小・中学校の現場でどれほど共有されているのか疑問です。環境問題（SDGs）の学習と合わせて児童・生徒にもっと学んでほしいし、教職員の皆さんにもそうした意識の向上を求めたい。【50代 男性（筑後）】
- ・ 自分のペースを守り、きちんと生活する事でワンヘルスに近づいています。雑な振る舞いをしない行動が大事。【60代 女性（筑後）】
- ・ 地産地消のために県はもう少しPRに力を入れてほしい。

【70代以上 女性（筑後）】

- ・ どういう取り組みがあるのかまだよく周知されていないので、具体的な効果や成果などが広まって、誰でも気軽に参加できる機会が増えればよいです。

【70代以上 女性（筑後）】